

発行元
東京新聞
南千住専売店
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

すまいるたうん



第310号
平成27年
1月14日

はい！東京新聞です



取材現場のつぶやき

ギネス世界記録に挑戦する都内の人々、というのが、この正月、したまち版を含む、朝刊都内版に掲載した連載記事でした。ギネスブック、現在は「ギネス世界記録」が正式名称ですが、世界中のさまざまな「世界一」を認定して掲載している本が創刊されて、二〇一五年で六十年という節目をきっかけに企画しました。私はデスクとして携わりました。みなさま、お読みいただけたでしょうか。

これまでに認定されたさまざまなギネス世界記録を調べたところ、東京に關係のあるものを調べたところ、荒川区と關係が深いものもありました。

ロボットの姿をしていて、人が触れると、目を閉じたり、首をかしげたりする表情やしぐさをします。二〇〇二年に、「世界一、癒やし効果のあるロボット」として認定されました。

開発したのは産業技術総合研究所の연구원、柴田崇徳さん。富山県の電子機器会社「マイクロジェニックス」とともに開発したそうです。当時の記事によると、柴田さんは名古屋大学大学院で、本来なら三年かかる博士課程を、一年半で修了したほど優秀な方なのだ

そうです。

ロボットの名は「パロ」。認知症にも効果があることが研究で認められ、世界中の高齢者施設などで使われています。

このパロは、一部ですが、荒川区の業者も開発にかかわっているそうです。荒川区の産業展などでも展示されたことがあります。「世界一」が身近にある。ちょっと楽しいことだと思えます。

また、記事で取り上げたように、まだ世界一に認定されていないけれども、世界一に向けて挑戦を続けている人も、東京にはたくさんいらっしゃいます。そうした挑戦の気持ち、その人たちの日々の仕事で張り合いがうまれたり、家庭や地域での絆が強まったりすれば、たとえば世界一になれなくても、世界一になったのちに世界の誰かに記録更新されても、自分の中に、自分にとっての世界一の財産が残るのではないかと思います。

さて、二〇一五年を迎えました。ことしの東京は、いろいろな節目を迎えます。戦後七十年。三月九日夜から十日未明にかけての東京大空襲も、あの悲劇から七十年です。

翌日の三月十一日は、東日本大震災から四年です。荒川区の一部地域で、三区で初めての計画停電が行われたのが三月十六日。たった四年前、もう四年もたった。どうお感じでしょうか。

三月二十日は、地下鉄サリン事件から二十年です。当時の記事を読むと、容疑

者は、荒川区の隣、足立区の北千住駅から地下鉄に乗り、都心近くでサリンを車内に発散させた、と書いてあります。

三月三十日は、警察庁長官銃撃事件から二十年。犯人が見つからないまま、時効となりました。現場は、荒川区南千住でした。

思えば、身近に起きた不幸な事件、災害がたくさんありました。それらを振り返ることも、未来に明るい夢や希望を持つことも、どちらも大切だと思います。

二〇二〇年の東京五輪まで、あと五年となります。

一九六四（昭和三十九）年の東京五輪では、聖火リレーが荒川区にも来たそうです。十月七日、南千住のコツ通りを、一・一km、約八分間、走ったそうです。

私は、取材の下調べで読んだ資料で初めて知りましたが、荒川区にお住まいの皆様の中には、聖火をご覧になった方もいるのではないのでしょうか。

五年後、また荒川区に聖火が来たらいいですね。五輪が無事に開催されるには、世界が平和でなくてはなりません。

平和な未来を、そしてみなさま一人ひとりのご健康、お幸せを、心よりお祈りします。本年もよろしくお祈りいたします。

（東京新聞 社会部 部次長

〔前・したまち支局長〕 榎本哲也）